



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(2)

【概要】

2025 年 6 月 20 日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて理工学部 長田 聡史 教授と先進健康科学研究科（理工系）の大学院生らが本年度 2 回目の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により、実験を通した理科への興味をきっかけに子供たちの就学意欲を芽生えさせることを目的として行なわれています。大学が不登校支援機関に対して行う理科実験教室は全国でも数少ない活動で、これまでに数多くの大学生、大学院生がボランティアとして参加してきています。

2025 年度第 2 回は、6 月 20 日(金)に、理工学部化学部門 長田 聡史 教授とともに先進健康科学研究科（理工系）の大学院生と理工学部理工学科生命化学コースの学部生が、「これで君も魔法使い!? 色が変わるカメレオン溶液」と題して行いました。

実験では、振ることで色が変わる液体や、振動反応として知られる周期的に色が変わる溶液反応を、子どもたちに作製、観察してもらいました。振ると色が変わる液体では、無色から青色へと変化する様子を何度も繰り返し観察する中で、徐々に色調が変化していくことを報告してくれました。熱心に観察していた子どもからは、「繰り返していると色が薄くなってきたのはどうして?」「ほかの色はありますか?」といった質問があり、強い興味を示してくれました。その様子に、実験を準備した学生たちも思わず笑みをこぼしていました。異なる色素を用いた実験では、より鮮やかに赤や緑に変化する様子を見せることができました。最後に、振動反応によって波紋が広がる様子を動画で観てもらい、注意深く観察していた高校生が振動反応について新しい発見をしたことを紹介し、実験における観察の重要性を学んでももらいました。



「理科実験教室」の様子